

## 5年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「水産業のさかんな地域」 ～魚の旅から見る人々の思い～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

（省略）

### 3. 単元目標

我が国の水産業における食料生産について、生産量の変化、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目し、地図帳や地球儀、各種の資料などで調べてまとめ、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割やその働きを考え、表現することを通して、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し解決することや、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などからこれからの水産業について、多角的に発展について考えようとする態度を養う。

### 4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを白地図や図表や文などにまとめ、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだし、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ②生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用を関連付け、水産業に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などからこれからの水産業について、多角的に発展を考えたりして表現している。	①我が国の水産業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、消費者や生産者の立場などからこれからの水産業について、多角的に発展を考えようとしている。

## 5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

### (1) 教材化 ～回転寿司Aの取組から販売者の工夫や努力を考える～

本単元では、子ども達にとって身近な存在である回転寿司を導入に学習を進めました。前半部分の中で、第一次産業である水産業について学ぶようにしました。後半部分では、その水産業における現状を自分なりにどのように考えていくかの一つ的手段として、回転寿司A（販売者）の取組について触れるようにしました。「むだなく消費者の方に魚を口にしてほしい」という回転寿司Aの担当者の言葉から、残さず食べていくという視点にとどまらず、限りある資源を守っていくために人々は努力をしていることに気付くようにしました。また、その願いは生産者や消費者だけのものではなく、新たな販売者の視点を通し気付かせることで生産者・消費者・販売者の三者の働きが重要になることを理解するようにしました。

### (2) 学習過程 ～一目でわかる「魚の旅」～

私たちが普段食べている水産物がどのように私たちの元まで運ばれて来るのかを学習し、本単元の1時間目の学習問題の中で取り扱い、予想を立てて学習計画を作りました。そこから、前単元でも活用した、「米の旅」（学習の足跡）を作っていくような学習過程を展開しました。一緒に作り上げていく旅の地図を見て、水産物がどのような流れの中で私たちの元へ運ばれてくるのか、どのような人々が関わっているのかを視覚化することで、学習過程を俯瞰的に見るができるようにしました。また、「魚の旅」の地図を見て、水産物の流れを説明したり、そこに関わる人々の努力や工夫、思いを語れたりする子ども達が育つようにしました。

### (3) 学習活動 ～資料を見て、語れる子ども達～

単元を通して、写真やグラフ、図などから読み取り、何を意図し示しているものなのかを自分の言葉で語れる場面を大切にしました。学習活動では、子ども達がGIGA端末を活用し、資料を細かく見ることによって自分の考えをもてるようにしました。そして、友達と考えを共有する場面を設定することで、資料を通して自分なりに学習問題を解決するだけの手段にとどまらず、1人では気付かなかった一つ一つの資料の価値や意味に気付き、より深い学びになることを目指しました。その際に、考えを出すだけではなく、その意見を整理したりまとめたりする教師の言葉かけも大切にしました。

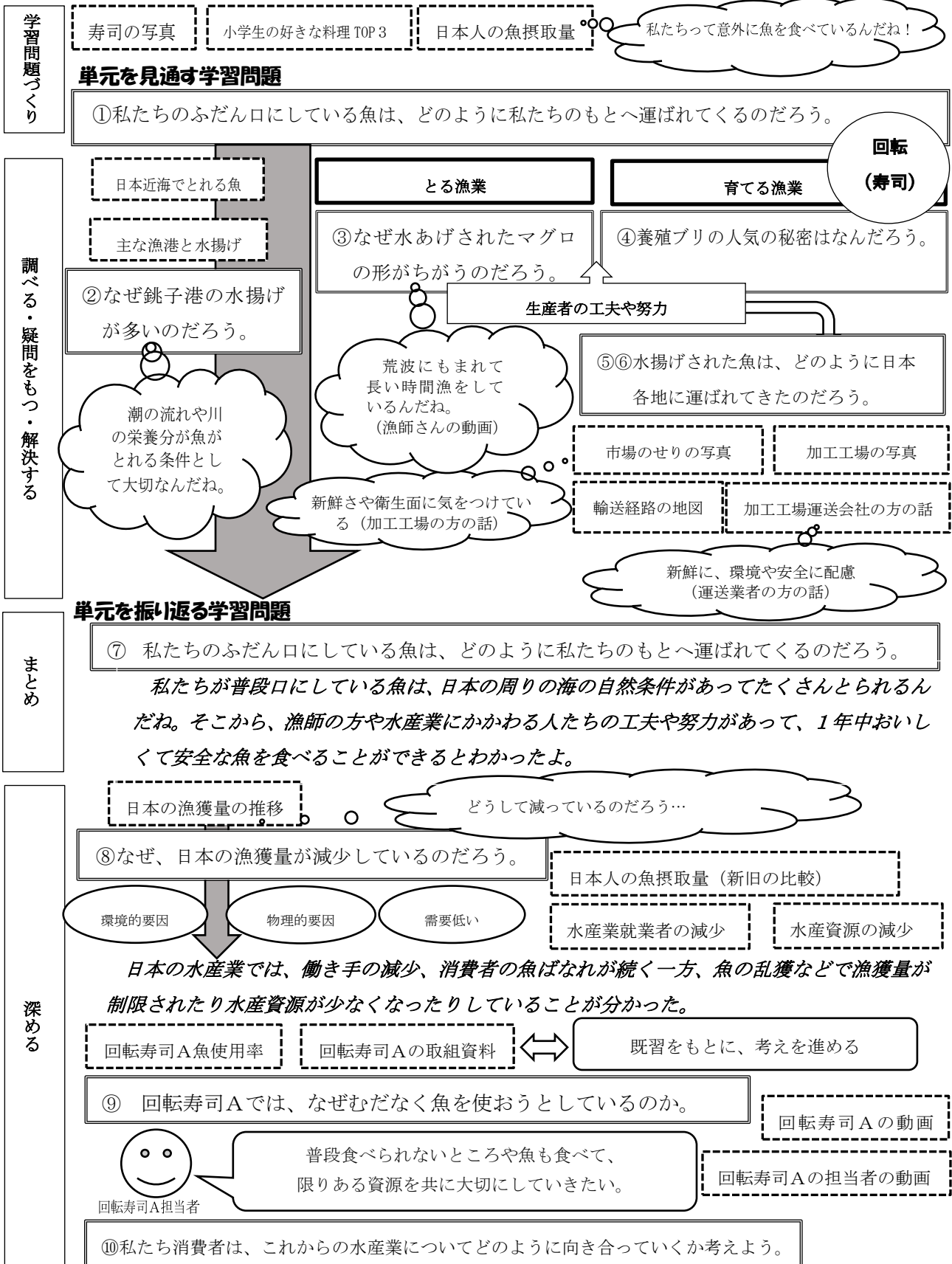
### (4) 指導と評価 ～小単元のまとめと振り返り～

小単元ごとに、学習問題を立て資料から問題解決的な活動を進めました。授業中の学習をまとめる時間や前時の振り返りをする場面を大切に、実態に応じた指導ができるようにしました。学習活動の中で1時間で捉えてほしい指導内容を明確にしながら、そのねらいに向かい迫れるように指導方法を工夫しました。まとめを書く時間を保障し、書き方を例示することで、文章を書くことが難しい子どもでも取り組み、可能な限り評価が適切にできるようにしました。子ども達が書いたまとめや振り返りから、学習問題が適切だったか学習過程が効果的だったかを教師自身も振り返り、次時に生かしていくようにしました。

### (5) 一人一人が生きる社会科学習 ～自分で考え発信する、そして自分の言葉でまとめる～

同じ資料をもとに自分の考え（予想）をもつこと、根拠をもって自分の考えを発信することを大切にしました。その中で、自分の考えをもつことが難しい児童には、他の児童の意見を聞いて自分の考えをもてる協働的な学びを大切にしました。キャリア在り方生き方教育の考えに基づき、自分にかかわる人々の様々な役割を理解し、学んだことを他人事とせず、自分の身の回りに置き換えて考え、他者との相互理解や社会性の向上に努めていけるように指導するようにしました。

## 6. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想



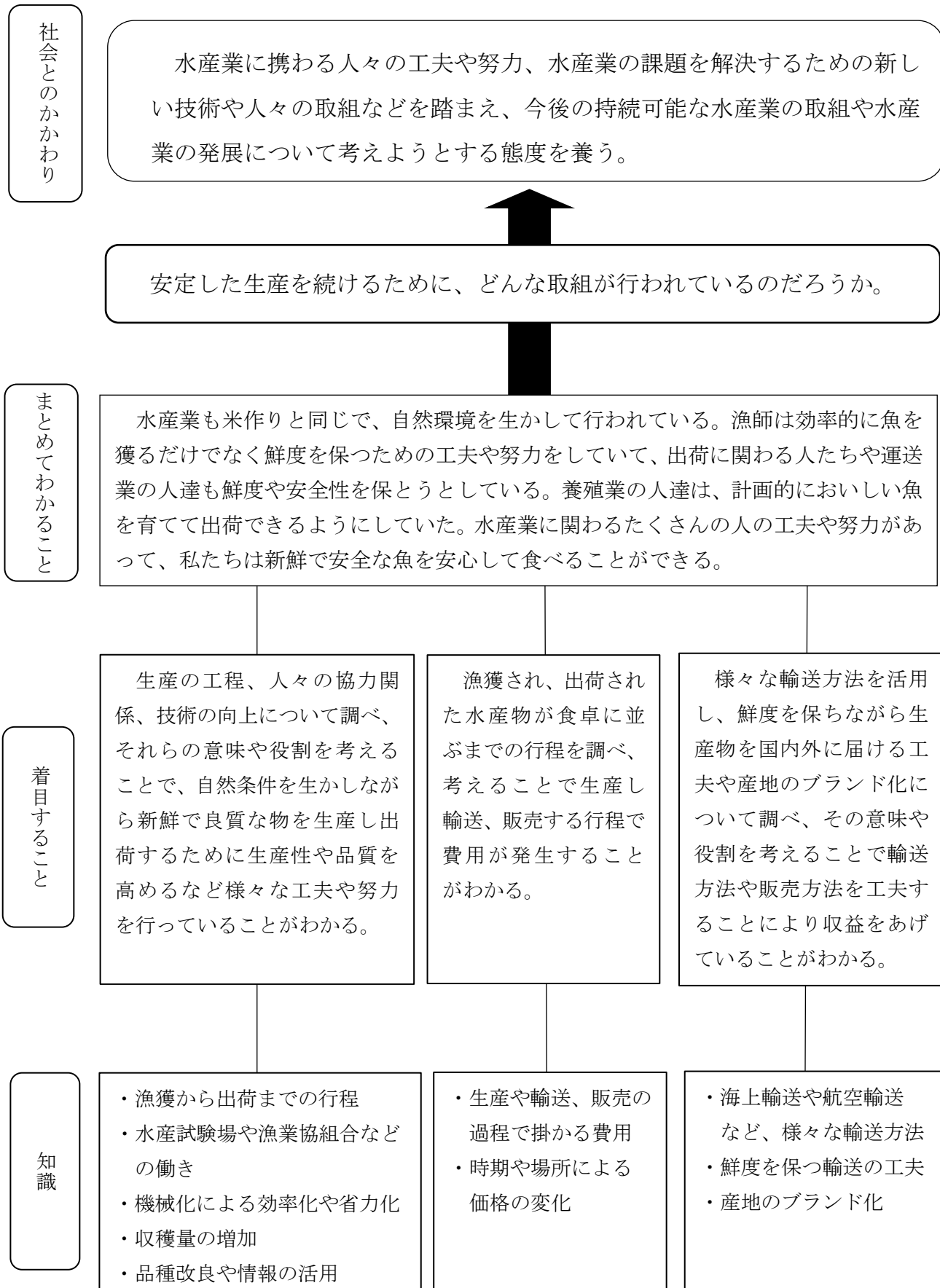
今、水産業のおかれている状況はとても厳しいことを知った。消費者の魚ばなれ、担い手の減少、そして環境を意識した資源制限と多くの課題がある。それらに対して、生産者の人々はよりよいものを私たちに届けようと努力や工夫を続け、また販売者の人々は私たち消費者と生産者をつなぐ役目として、水産業に関わる人々が協力してこれからの水産業に向き合っていくといけないのだと感じた。そのために私たちも、環境に配慮しながら感謝の気持ちを大切に水産物を食べていきたいと思った。

7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（10時間）※は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
<p>①水産業という言葉からイメージを広げ、水産物として普段口にしていない魚がどのように運ばれてくるのかについて学習問題をつくり、学習計画を立てることができる。</p>	<p>○身近な寿司に注目し、水産物がどのように運ばれてくるのか予想を立て、考えを交流する。 ○学習問題を解決するための学習計画を立てる。</p>	<p>◇寿司の写真 ◇小学生の好きな料理TOP 3</p>	<p>発言内容や話し合いの様子から、「水産物が運ばれてくる過程に着目して問いを見出しているか」を評価する。【思一①】 発言内容や話し合いの様子から、「我が国の水産業について、学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態一①】</p>
<p>②日本近海でとれる水産物と自然環境について調べ、魚がたくさんとれる漁場や理由を理解することができる。</p>	<p>○資料をもとに、日本近海の自然条件と銚子港の水揚げが多い理由について調べる。</p>	<p>◇日本でとれる魚の種類 ◇主な水あげの魚 ◇主な漁港と水揚げ量 ◇日本近海の潮の流れを示す資料</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「地図や統計などの資料を活用して、魚がたくさんとれる漁場やその理由を理解しているか」を評価する。【知一①】</p>
<p>③水揚げされたマグロの形に着目し、マグロ漁師の工夫や努力を理解することができる。</p>	<p>○マグロが水揚げされる様子から、漁師の工夫や努力について調べる。</p>	<p>◇延縄漁法に関する資料 ◇マグロ漁の参考動画 ◇魚の旅</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から、「資料から必要な情報を集め読み取り、マグロ漁師の工夫や努力を理解しているか」を評価する。【知一①】</p>
<p>④養殖業の特色について調べ、食料の安全で安定した供給を目指した養殖業に関わる人々の工夫や努力を理解することができる。</p>	<p>○ブリの養殖業についての資料をもとに、どうして養殖業がさかんに行われるのか調べる。</p>	<p>◇天然のブリと養殖のブリの価格の違い ◇長島町の海の写真 ◇養殖の様子写真・動画</p>	<p>発言内容やノートの記述から、「養殖業の特色やそれに関わる人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。【知一①】</p>
<p>⑤⑥港に届いた魚が運ばれていく過程を調べ、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解することができる。</p>	<p>○輸送方法や利点について調べ、輸送に関わる人々の工夫や思いを考える。</p>	<p>◇水揚げ・漁港・市場・加工・輸送の写真 ◇加工業者の方の話 ◇運送会社の方の話 ◇「魚の旅」</p>	<p>発言内容やノートの記述内容、GIGA 端末の内容から、「資料から必要な情報を集め、読み取り水産業に関わる人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。【知一①】</p>

<p>⑦学習したことをまとめ、水産業に関わる人々の工夫や努力に食料生産が支えられていることを理解することができる。</p>	<p>○学習の足跡である、魚の旅を使って学習を振り返り、まとめる。</p>	<p>◇「魚の旅」</p>	<p>ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、水産業に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして新鮮で安全な魚を届け、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 【知一②】</p>
<p>⑧日本の漁獲量の減少について原因や背景を考え、これからの水産業の発展について新たな問いを見出すことができる。</p>	<p>○資料から、日本の水産業が抱える課題について調べ、原因や背景を考える。</p>	<p>◇漁獲量の推移 ◇水産業就業者の推移 ◇日本人の魚摂取量 ◇資源管理についてわかる資料</p>	<p>発言内容や話し合いの内容、ノートの記述内容から、「我が国の今後の水産業について、これまでの学習を振り返り、新たな問いを見出しているか」を評価する。 【態一①】</p>
<p>⑨回転寿司Aの取組を通して、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などからこれからの水産業について、多角的に発展を考え、表現することができる。</p>	<p>○これまでの学習を基に、回転寿司Aが行う取組の意味を考える。  ○日本の水産業が抱える課題への取組について、販売者や生産者などの立場から考える。</p>	<p>◇水産業の課題に対する資料 ◇回転寿司Aの資料 ◇漁師の方の動画 ◇回転寿司Aの担当者の方の動画</p>	<p>発言内容や話し合いの内容、ノートの記述内容から、「回転寿司Aの取組を通して、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などからこれからの水産業について、多角的に発展を考え表現しているか」を評価する。 【思一②】</p>
<p>⑩生産者・販売者・消費者の様々な立場から、わたしたちが水産業について大切にしていかななくてはならないことについて考えようとする態度を養う。</p>	<p>○前時までの学習や資料を基に、これからの水産業で大切なことについて、消費者や生産者などの立場から考える。</p>	<p>◇「魚の旅」 ◇水産業の課題に対する資料</p>	<p>ノートの記述内容から、「持続可能な水産業の取組について調べ、生産者・販売者・消費者の立場から今後の水産業について多角的に考えているか」を評価する。 【思一②】  ノートの記述内容から、「学習したことを基に消費者や生産者の立場などからこれからの水産業について、多角的に発展を考えようとしているか」を評価する。 【態一②】</p>

資料. 「社会のしくみ」と「社会のかかわり」をつなぐ理解の構想図



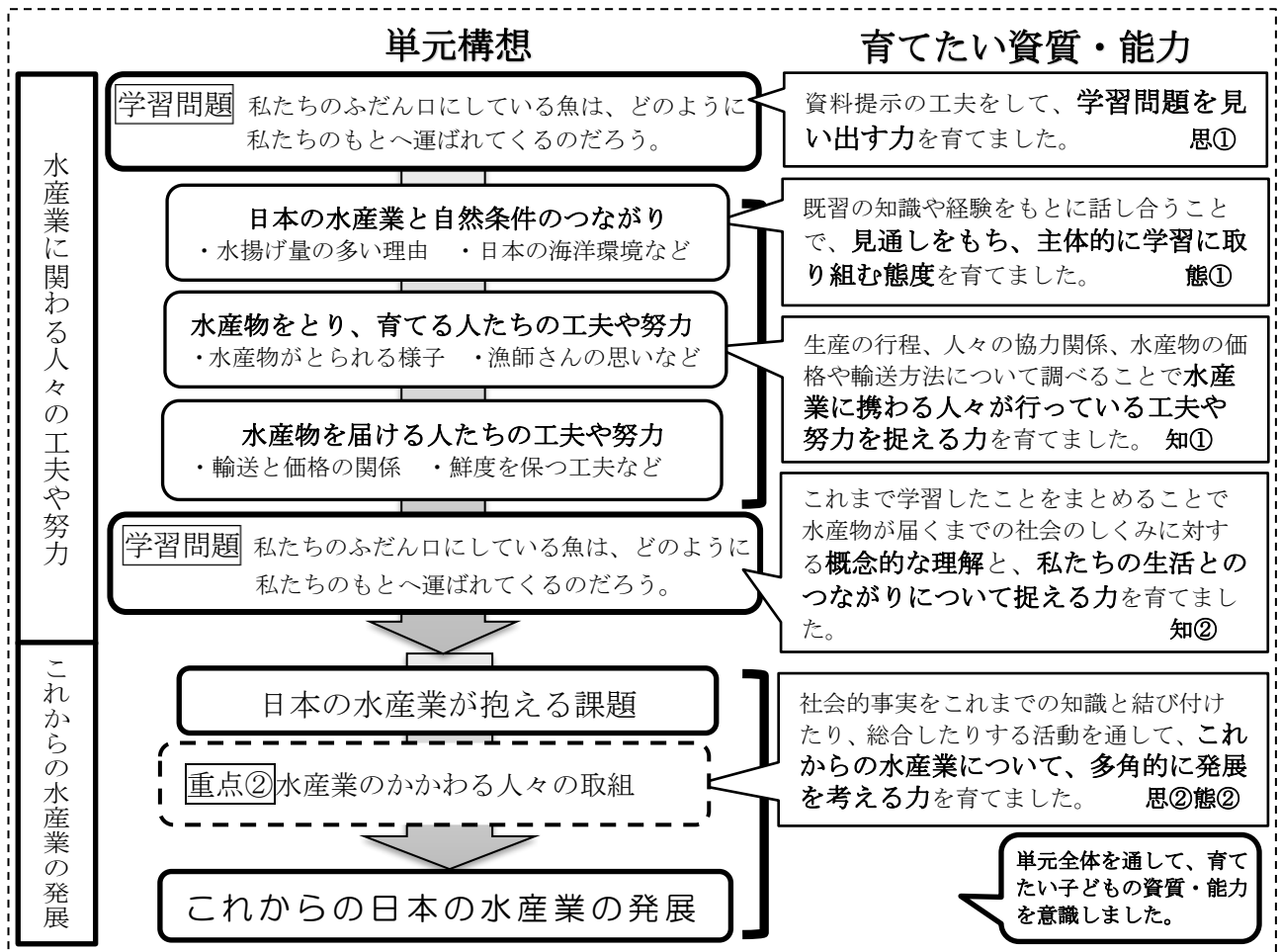
# ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

研究主題に向けて、5年部会では、以下の2点を重点に授業を行いました。

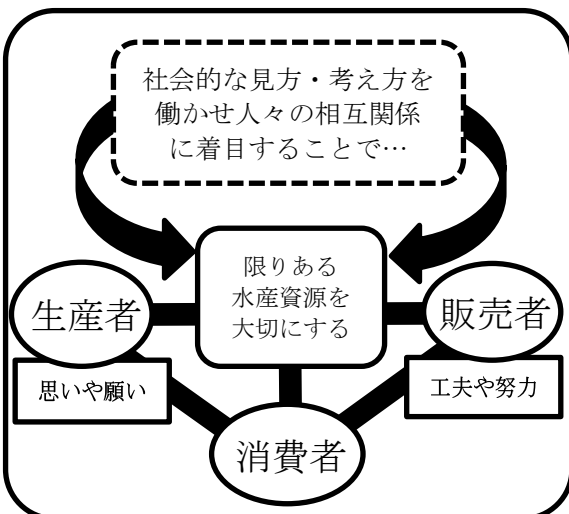
## ◆重点① 単元で育てたい資質・能力を意識した学習過程

水産業に携わる人々の工夫や努力、その人々によって食料生産が支えられていることがわかるように、どの時間に何を学ぶのか単元における資質・能力を明確にして構想を立てました。

単元の後半では、これからの水産業の発展について多角的に考える時間を設定しました。学習したことを基に水産業の課題を捉え、その課題に向き合っている人たちの存在に気付かせることで、切実感をもって、よりよい水産業の未来の在り方を考えられるようにしました。



## ◆重点② 多角的な視点から水産業の発展を考える教材化～持続可能な水産業を目指す回転寿司Aの取組～



回転寿司Aは、販売業者として水産物を消費者に提供するだけでなく、水産物を無駄なく使う工夫をしたり、売り上げの一部を漁師支援に寄付したりするなど、持続可能な水産業を願い、様々な取組を行っています。

限りある水産資源を大切にするという面に焦点をあて、回転寿司Aが行う取組の意味を考えました。その意味を人々の相互関係に着目し、社会的な見方・考え方を働かせながら追究することで、販売者や生産者など様々な立場から、これからの水産業の発展について考えられるようにしました。

学習のゴールは、日本の水産業の課題に対する解決策を子ども達が見出すのではなく、「こんな水産業の未来であってほしい」と子ども達なりにこれからの社会の在り方を考えられるようにしました。